

つきたい力

- ・興味関心を広げ、自ら本を選び、読み進める力
- ・目的に応じて必要な情報を読み取る力
- ・読み取ったことをまとめ、自分の考えを整理し、発信できる力

取組みの概要・ポイント

- つきたい力を育むための並行読書を活用した授業づくり
- 教科等横断的な学習における児童が主体的に学びたくなる、魅力的な言語活動の設定
- 学びに関連する様々な本と出合える環境設定

学校図書館がつなく、教科等横断的な学習

学習者主体の学びをめざし、各教科のつきたい力を明確にした言語活動を設定した。教科等横断的な学習で、子どもたちが相手意識や目的意識などの学びの必然性を感じられるようにした。

1年【国語・体育】

「○○をよんできて」

おおきなかぶのかぶを抜くシーンを、様々な動物になりきって表現遊びに取り組み。

2年【国語・生活・音楽】

「生き物と友だちになろう」

動物や虫などの生きものについて調べ、すごいところをまとめたり、クイズや歌をつくったりして学習に取り組む。

3年【国語・社会】

「聞き取り名人になって図書館をアピールしよう」

図書館見学を経て、すごいところをアピールするために、聞きたいことを落とさずに聞く方法を学ぶ。

4年【理科・国語】

「これがわたしのイチオシ動物」

動物のからだのつくりをきっかけに動物のすごいところを調べ、集めた情報を分類したり比較したりしながらイチオシ図鑑をつくる。

5年【社会・国語】

「地域のみりょくを伝えよう」

日本の食料生産の課題を解決するために、自分が選んだ都道府県の魅力を食を中心に調べてまとめ、4年生に紹介する。

6年【総合的な学習の時間・国語】

「平和の実現に向けて」

修学旅行（広島）に向けた平和学習や現地で学んだことをもとに、自分でテーマを設定し、平和実現に向けた提言書を作成する。



学校図書館を活用した実践体系表はこちら

様々な本に出合える環境の設定

子どもたちの普段の生活で読むことが少ない本と出合えるしかけを行う。自分の興味関心の外側にある本にも親しむことができるように取組みを進める。

●子どもたちが読みたくなる環境づくり

【並行読書マトリックス】

自分が読んだ本の欄にシールを貼る。読書量の可視化や友だちがおもしろいと思った本を知ることができる。また、単元の言語活動でも自分の考えをはっきりさせたり伝えたりする交流相手を選ぶために使用できる。該当単元が始める前からマトリックス表と並行読書材を廊下や教室内に配架し、読書環境を整える。



【廊下を使った特別展示】

「児童の学びの成果と使用した本」や「教科書教材の作者の著書」「学習内容に関連した本」などテーマに合わせた本を図書室前や各学年の廊下に展示し、視覚的に読みたくなる環境をつくる。児童の作品を通して、学年を超えたつながりをつくることにもつながった。



●図書委員会と連携したとりくみ

【読書福袋】

新聞紙で包んだ本に一言メッセージをつけて並べる。



【マイ本棚】

自分が決めたテーマで本棚を作り、本を並べる。



取組みを通しての子どもの変容

- ・学校図書館活用に関わるアンケート数値の向上。（右記表を参照）
- ・茨木市グローイングチェック、正答率の向上と無解答率の減少。（正答率 R5:66%→R6:74% 無解答率 R5:9%→R6:1%）
- ・並行読書材の中から、自分が好きな本や発見したことなどを友だちや教員に伝える姿が多くみられるようになった。

	R4	R5	R6
本を読むことが好き。	75%	80%	80%
学校図書館での学習や、本や資料を使って調べることは楽しい。	70%	78%	83%
図書館資料やインターネットなどで調べたことをもとに、自分の考えをまとめて書いたり、話したりしている。	48%	71%	74%